

事務事業評価シート(平成22年度)

(義務的事業)

(A面)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課		課長名	記入者
		教育総務		原 寛	宮原文隆
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度	
文化財保護事業		新規	年度	年度	
		継続	○ H19以前	○ 未定	
事務事業の体系					
計画 掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち	(節) 6 地域文化の振興		
	個別計画	(基本計画) 文化財の保護・周知			
根拠法令・条例・要綱等			事業区分(該当する区分に「○」)		
文化財保護法、多可町文化財保護条例			ソフト事業	施設の維持管理	
			○ 義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容			建設・整備事業	計画などの策定	
町内の各種文化財の基礎データを作成し、保全・活用を図る			補助金の支給	有	○ 無
			委託	全部委託	一部委託
			○ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象(働きかける相手・誰が・もの)	受益者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)
職員・住民	住民	文化財の保護・周知・活用を図る

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>				会計名	一般	会計
細目名	那珂ふれあい館運営事業	細目名		細目名		
予算 コード	款 項 目 節 10 5 6 1	予算 コード	款 項 目 節	予算 コード	款 項 目 節	

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>						
事務事業・人員		単位	21年度 決算	22年度 実績(見込)	23 年度 計画	備 考 (全体事業費など)
総 コ ス ト			8,070	8,140	8,353	
コスト の内訳	直接事業費	千円	600	670	883	
	所属内間接費					
	人件費		7,470	7,470	7,470	
	投入人員	正職員 嘱託員	人/年	0.77 0.30	0.77 0.30	
財源 内訳	国・県支出金					【特定財源内訳】 町史等頒布代50
	地方債					
	その他特定財源		124	53	50	
	一般財源		7,946	8,087	8,303	

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	21年度 実績	22度 見込	23年度 目標
1	文化財悉皆調査	悉皆調査(仏像・絵画等)	データ化	回	10	10	10
2	文化財悉皆調査	悉皆調査(民俗・古文書等)	データ化	回	15	15	15
3	展示企画展	談話室による歴史資料の公開	企画展開催	回	2	2	2
4	文化財保護審議会	悉皆調査基礎資料の提示	審議会の開催	回	1	1	2
5							

(義務的事業) (B面)

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [文化財保護事業			備考 (成果指標の考え方・計算方法)
成果指標(意図の数値化)	単位	21年度 実績	22年度 実績(見込)	23 年度 目標	
悉皆調査	回	25	25	25	悉皆調査の実施により、地域に残された文化財を把握し、保護・活用に努め、住民のふるさとを重んじる心の育成に寄与する
展示企画展	回	2	2	2	

7 事務事業の事後評価 <Check>				(義務的事业)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
妥当性	サービス水準の妥当性	事業開始時から社会環境の変化は		ない	○ ある				
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は		ない	○ ある				
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は		○ ない	ある	把握なし			
	連携の可能性	他課で類似の事業は		○ ない	ある				
		他の事業と統合できる可能性は		ない	ある	○ あるが困難			
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は		ない	ある	○ あるが困難			
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は		ない	ある	○ あるが困難			
効率性	手段・プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は		ない	○ ある				
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は		○ ない	ある				
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○ ある				
		(委託している場合)業者選定や契約方法の変更によるコスト削減の余地は		ない	ある				
		受益者負担を見直す余地は		○ ない	ある				
市場化の可能性		既に全部委託済		更なる委託化が可能である		委託化の余地があり		○ 委託化は不可能	
		市場化テストの導入について検討する余地がある		市場化テストの導入を検討する余地はない					
改善の可能性		1.改善の余地はない			○	2.改善の余地がややある			
		3.改善の余地が多い				4.抜本的な見直しが必要			

事務事業評価書

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action> 文化財保護事業

職場からの意見(担当者)									
(課題の解決についての提案など) 急激な社会的変化によって、文化財が急速に失われつつある。失われた文化財は取り戻すことが非常に困難である。また、地域に今まで伝えられた文化財は地域のコミュニティ形成にも活用でき、これらを丁寧に掘りおこし、記録をとり、その成果を住民に還元することが必要である。こうした点を鑑みると、今この事業を重点的に進めるべきと考える。									
担当課長評価									
(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 伝統文化の史実を明らかにすることでその継承の手助けを行いたい。 地域の調査で新たに掘り起こした伝統文化については、地域に十分な説明を行い、新たな伝承活動に結び付けたい。 伝統文化の継承や掘り起こしには時間の流れが大敵。今を大事にタイムリーな調査を引き続き実施したい。									
所管評価	○	1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続		3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了	内部評価		3
教育長評価									
(教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 現状のまま継続していく。									
事業評価		1. 重点的に継続	○	2. 現状のまま継続		3. 内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7. 終了・完了			
評価委員コメント									
事業は積極的にすすめてほしい。									